

「目指せ三ツ星！広島和シュランプロジェクト」 和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる

1 日 時 令和7年11月14日（金） 1校時

2 学年・学級 第5学年3組（31名）

3 本単元で付けたい資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。 【(2) イ】	○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。 【C (1) ウ】 ○引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 【B (1) エ】	○言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合うとする。

4 付けたい資質・能力に関する児童の実態

- 「読むこと（説明的な文章）」の領域に関わる学習について、レディネステストを行った結果は以下の通りだった。

内容項目	正答率
文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けている。	18%

結果から、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けて読み取る力が身に付いていないことが分かる。文章か図表、どちらか一方からしか必要な情報を読み取ることができていない児童が多くいた。また、何を問われているのか理解することができず、文章と図表どちらからも必要な情報を見付けることができない児童も数名いた。このことから、単一の情報のみに基づくのではなく、複数の情報を結び付けながら読み取ることに課題があると分かった。また、1学期の「インターネットは冒険だ」の学習でも、本文中の図表が何を示しているのか、本文のどこを詳しく説明している図表なのかを理解することが難しい児童がいた。日頃から、文章と図表を結び付けて考えたり、表題に着目し何を表している図表なのかを考えたりするという習慣が身に付いていない児童や、叙述と文章が関連付いたものであったとしても、それぞれ使われている表現が異なることで、その関連性に気付かない児童がいる。これらのことことが文章と図表両方から必要な情報を見付けることができない原因の一つだと考えられる。

- 「書くこと」の領域に関わる学習について、レディネステストを行った結果は、次のような結果であった。

内容項目	正答率
自分の伝えたいことを明確に書くことができる。	77%
図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。	22%

自分の伝えたいことを相手にも伝わるように明確に書くことができた児童は7割以上だった。しかし、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる児童は少ない。複数の情報から自分の考えを分かりやすく伝えるために情報を整理して、図表などを用いて文章をまとめることに課題があると分かった。たくさんある資料から、一つ一つの資料が何を表しているのか読み取ることができない児童や書く目的や誰に対して書くのかということをしっかり意識せず、資料を大まかに見て分かることだけを羅列してしまう児童がいる。これらのことから、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができない原因だと考えられる。

5 指導観

【授業づくりの柱】

- ① 児童の実態を踏まえた「指導の工夫」をする。
- ② 児童の自己表現の力を高める「伝え合いの場」の工夫をする。
- ③ 児童に付けるべき力を明確にし、達成するための「単元づくり」の工夫をする。

○ 第1次では、広島で受け継がれてきた和の文化クイズを行い、私たちの住む広島には古くから受け継がれてきた文化があるとともにその魅力があまり知られていないことに気付かせる。国語の時間以外で児童に広島で受け継がれてきた和の文化について調べさせ、保護者に向けてどのくらいそれらのことを知っているのかを調査するアンケートを作成し、実施する。アンケートを通して自分たちだけでなく長年広島に住んでいる大人でも広島の和の文化の魅力をあまり知らないことを実感させる。

そこで、「まだ知られていない広島の和の文化を発信するリーフレットを作成し、広島県に住んでいる人や観光客に紹介して星を集めよう！」という課題をもたせる。星については、星一つは新しいことが知れた、星二つはその和の文化の魅力が伝わった、星三つはその文化の魅力が伝わり大切にしたいと思った、とレベルを分けて設定する。

学習を展開するにあたって、まず、伝えたいことを分かりやすく伝えるリーフレットを作成するにはどのような力を身に付けていく必要があるのか、どのような学習計画で行っていくのかを児童と一緒に考え、単元の見通しを全体で共有する。

次に、第4次で作成するリーフレットで、どの広島の和の文化について紹介するのか決めさせる。ここで取り上げる和の文化は、経済産業大臣指定伝統的工芸品である「熊の筆・広島仏壇・宮島細工・福山琴・川尻筆」、広島県伝統的工芸品に指定されている「一国斎高盛絵・銅蟲・三次人形・宮島焼・戸河内削物・戸河内挽物・備後絣・手織中継表・大竹手すき和紙・大竹鯉のぼり」の15の工芸品にしほる。取り上げる和の文化が決まったらその文化について調べさせ、どのようなリーフレットを作っていくかイメージをもたせる。その後、教材文を読むことで、自分たちがリーフレットを作成していくために、教材文の筆者の論の進め方や情報の関係付け方について学ぶという読む目的を明確にもてるようとする。

○ 第2次では、「和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる」の文章全体の構成を捉える活動を行わせる。第3次で内容のまとまりごとに要約したリーフレットを作成する活動を行うために、まずリーフレ

ットはどのような構成で作成すればよいかを考えさせる。その際、文章全体の構成が一目で分かるように、教材文をプリント1枚にまとめたものを使って考えさせる。そうすることで、児童が文章全体の構成に目を向け、内容の大体を捉えることができるようにしていきたい。

- 第3次では、「和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる」の内容のまとまりごとに要約したリーフレットを作成する活動を行わせる。まず始めに、筆者の主張をとらえ、筆者の主張に対する疑問を出させる。その疑問を解決していくために本文を読み取っていくことで目的意識をもって内容のまとまりを捉えさせたい。内容をまとまりごとに整理する際には、教材文をプリント1枚にまとめたものを使用し、大切なキーワードを中心に必要な部分に線を引きながら考えさせる。それぞれの内容が筆者の主張とどのように結び付いているか、筆者がなぜその観点について述べたのかという意図を考えさせることで、リーフレットに何をまとめたらよいのかということを話し合い、共有した上でまとめさせる。その際、接続詞や文末表現、繰り返し出てくる言葉や題名とのつながり等にも着目させる。

また、本文中に出てくる図表の効果について考えさせる際には、考える時間を十分に確保する。何を表している図表なのか、文章中のどこと結び付いている図表なのかを考え、1枚教材を使いながら文章と図表を線でつながせる。また、図表がある場合とない場合を提示し比べさせることで、図表があることでどんな効果が生まれるのかを考えさせたい。

次に、本文とインタビュー記事との結び付きや、インタビュー記事の効果について考えさせる。その際、資料を付け加えることの良さについて深く考えさせるために、インタビュー記事が以前の教科書には掲載されていなかったことを伝える。そこからなぜこの資料が新しく加えられたのか疑問をもたせることで、資料の効果を考えさせる活動につなげていきたい。

そして筆者の論の進め方や情報の重ね合わせ方について自分が考えたことや学んだことを、第4次で行うリーフレットの作成にどう生かしていくのか考えをもたせたい。

- 第4次で自分が選んだ和の文化のリーフレットを作成していく活動では、まず第3次での学習を踏まえてリーフレットの流れや構成、内容について考えさせる。その際、前時までに自分が作成した和菓子のリーフレットと、教師が作成した和菓子のリーフレットの良くない例を比較させる。そうすることで、リーフレット作成のポイント（①文章だけでなく図表などを取り入れる②取り入れる図表は文章と関係のあるものにする③読みやすく簡潔にまとめて書く④いくつかの観点から和の文化について説明する等）を再確認させ、和の文化の魅力がより伝わるリーフレットを意識させる。

次に、どの観点からリーフレットを作成していくのかを考えさせる。主張を明確にし、その主張を支える根拠としてどんな情報を伝えたらよいかを考えていく中で、第1次で集めた情報を取捨選択させたり、足りない情報をを集めさせたりする。また、情報収集の手立てとして、情報を集める際に活用できるリンク集をスプレッドシートにまとめておき、自由に参照できるようにする。

最後に、リーフレットが完成したらクラスの中で読み合せたり、教師が作成したリーフレットの良くない例を再度比べさせたりしながら気付き等を伝え合い、修正をさせ、より良いものを仕上げさせる。

- 第5次では、単元を通しての振り返りを行わせる。単元の目標を再確認し、自分が調べた和の文化の魅力を伝えるためにどんな工夫を取り入れてリーフレットを作成したか、進んで学習を進めることができたか、友達のリーフレットから学んだことは何かなどの視点を与え、自己評価をさせる。そうすることで、自身の成長を実感させたり、課題点を明確にさせたりし、今後の学習への意欲を高めさせるようにする。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。 【(2) イ】	○「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。 【C (1) ウ】 ○「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 【B (1) エ】	○進んで、自分の考えがより適切に伝わるよう書き表し方を工夫し、学習課題に沿って、広島の和の文の魅力が伝わる文章を書こうとしている。

7 単元の展開（全 14 時間）

次	時	学習活動	評価規準・評価方法等
第 0 次	0	○広島で受け継がれてきた和の文化クイズを行い、広島の和の文化について興味・関心をもつ。 ○広島で受け継がれてきた和の文化について知っているかを調べるアンケートを作成し、保護者にも実施することで学習への意欲をもつ。	
第一 次	1	○保護者を対象に行った広島で受け継がれてきた和の文化についてのアンケート結果を知る。 →広島には古くから受け継がれた和の文化があるが、あまり知られていないことに気付く。 ○学習のゴールイメージをもち、単元のめあてを設定するとともに学習の見通しを立てる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">広島和シュランガイドを作成し、まだ知られていない広島の和の文化の魅力が広島県に住んでいる人や観光客に伝わるように紹介しよう。～目指せ三ツ星！広島和シュランプロジェクト～</div>	
第二 次	2	○学習を通してどのような力を付けたいのかを児童と共有し、学習計画を立てる。 ○広島で受け継がれてきた伝統工芸品について調べ、どの和の文化をまとめていくのかを決める。 ○自分が決めた広島で受け継がれてきた伝統工芸品について調べ、必要な情報を集める。	
第二 次	3	○文章全体の構成を捉え、大体の内容を読み取る。	

第三次	4	○筆者の主張（要旨）を捉える。 ○教材文に書かれていることを内容のまとまりごとにリーフレットに整理する。	<p>[知識・技能] リーフレット・インタビュー記事の秘密解き明かシート ・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。 ※ここでは指導に生かす評価に留める。</p> <p>[思考・判断・表現] リーフレット・インタビュー記事の秘密解き明かシート ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。 【C（1）ウ】</p>
	8	○インタビュー記事を付け加えることの効果について、筆者の情報の重ね合わせ方に着目し、自分の考えをもつ。【本時】	
	9	○筆者の主張に対する自分の考えをまとめ、友達と共有する。	
	10	○リーフレットの流れや構成を確認し、内容について考える。	
	11	○伝えたいことに合わせて情報を選び、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫しながらリーフレットを作成する。	
	12	○班やクラスでリーフレットを読み合わせ、推敲する。	
	13	○推敲したリーフレットを読み合い、感想や意見を伝え合うとともに自分の文章のよいところを見付ける。	
	14	○単元を振り返る。	

8 本時の学習

(1) 目標

本文とインタビュー記事との結び付きを考えることを通して、情報を関係付けることの良さに気付くとともに、自分の考えをもつことができる。

(2) 評価方法

授業中の発言、インタビュー記事秘密解き明かシート、資料付け加えシート、スプレッドシート

(3) 学習の展開（8時間目／全14時間）

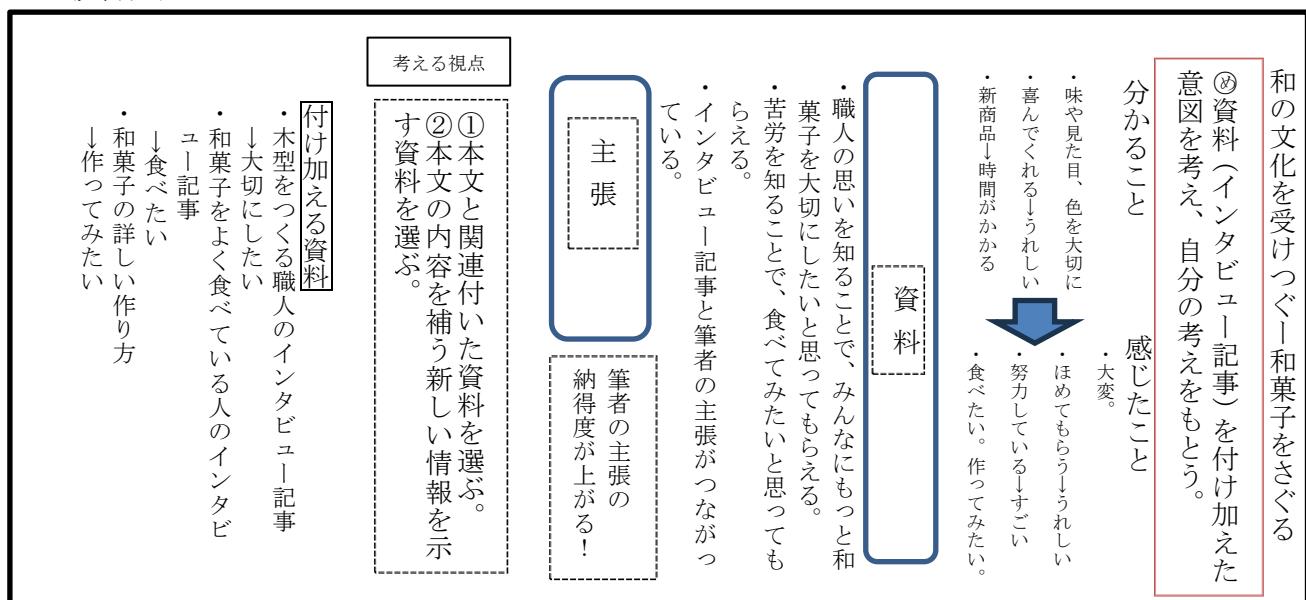
学習展開	学習活動	指導上の留意点・支援【評価】
つかむ	<p>1 前時までの復習をする。</p> <p>○本文の中出てくる図表の効果について確認する。</p> <p>○資料（インタビュー記事）から分かったことや感じたことを確認する。</p> <p>C：和菓子職人の思いが書かれています。</p> <p>C：職さんが努力や苦労をして和菓子を作っていることが分かりました。</p> <p>C：新商品の開発には時間がかかりました。</p> <p>C：職さんが時間をかけて作った和菓子を大切に食べていきたいです。</p> <p>C：苦労や努力をして和菓子を作っていると知って、味わって食べようと思いました。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">⑥資料（インタビュー記事）を付け加えた意図を考え、自分の考えをもとう。</p>	<ul style="list-style-type: none">・図表は文章だけでは分からず、より具体的なイメージを伝えることができるので、自分の言いたいことをより明確に表現できるということを想起させる。・前時で考えた資料（インタビュー記事）から分かったことや感じたことを確認する。・資料（インタビュー記事）を読むことで筆者の主張の納得度が高まったことをおさえる。・資料（インタビュー記事）は教科書の版が変わった際に追加された資料であることを伝え、疑問をもたせる。
さぐる・みつける	<p>3 資料が追加された意図を考える。</p> <p>○個人で考える。</p> <p>C：本文の13段落には、和菓子職人に必要な技術や感性を養うことについては書いてあったけど、どのような気持ちで和菓子を作っているのかなど、職人の思い</p>	<ul style="list-style-type: none">・資料と本文、筆者の主張とのつながりを意識しながら考えるようにさせる。・早く書けた児童同士で自分の考えた資料が付け加えられた意図を交流し、新しい考えがあった場合はメモを取らせる。

	<p>は書いていませんでした。資料を付け加えることで、新たに職人の思いを伝えることができると考えました。</p> <p>C : 本文の17段落の主張にある「どんな人がそれを支えているのか」という部分の具体例として挙げることで和菓子職人について詳しく伝えることができます。</p> <p>C : 本文には書いていなかった、和菓子作りの大変さや和菓子を食べてもらったときの喜びなど職人の思いを知ることで、読み手に和菓子をもっと大切にしたいと思ってもらいたいからです。</p> <p>C : インタビュー記事と筆者の主張がつながっているので、筆者の主張の納得度を上げることができます。</p>	
ひろがる	<p>○全体で共有する。</p> <p>4 自分が資料を付け加えるならどんな資料を入れるか考えさせる。</p> <p>○個人で考える。</p> <p>C : 木型を作る職人さんのインタビュー記事を付け加えたいです。14段落に和菓子作りに必要な道具をつくる職人さんのことも書いてあったけど、その人の思いは分かりませんでした。大変さや工夫が分かると和菓子をもっと大切にしていきたいと思えると考えたからです。</p> <p>C : 和菓子をよく食べる人のインタビュー記事を付け加えるといい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・提示している本文や資料を指し示しながら説明させることで、何と何を結び付け、どのように考えたのかが明確になるようにさせる。 ・本文には書かれていない新しい情報を示すことで筆者の主張の納得度をより高めていることに気付かせる。 ・付け加えることで筆者の主張の納得度を高めることができる資料を考えさせるために、〈考える視点〉を提示する。 <p>〈考える視点〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 本文と関連付いた資料を選ぶ。 ② 本文の内容を補う新しい情報を示すことができる資料を選ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・事前に和菓子について調べておき、ミライシードに資料をためておく。 ・自分が調べた資料や他の児童が調べた資料から、付け加える資料を選べるようにする。

	<p>と思います。なぜなら、本文の15段落には職人だけでなく、和菓子を食べる人も和菓子の文化を支えていると書いてあるからです。食べた感想を伝えることで、読んだ人も和菓子を食べてみたいと思えると考えます。</p> <p>C：和菓子の詳しい作り方を付け加えると良いと思います。本文には、和菓子作りには「包む」「焼く」「流す」など様々な技術があり、それは職人から職人に受け継がれてきたと書いてあります。本文に書いてある他にはどんな技術があり、どのように和菓子を作っているのか、詳しい作り方を付け加えることで、和菓子を作つてみたいという気持ちになると思うからです。</p>	
	<p>○考えを交流する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>〈対話の具体〉</p> <p>A：私は～という資料を付け加えようと考えました。</p> <p>B：なぜその資料を付け加えようと考えたのですか。</p> <p>A：この資料を付け加えることでさらに～と思ってもらいたいからです。</p> <p>B：なるほど。つまり～ということを思つてもらいたいのです。 (要約する) 私と～というところが同じですね。／違いますね。(自分の考えと比べる)</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・〈対話の具体〉と〈対話の際のポイント〉を提示し、意識させながら個人で考えた意見を交流する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>〈対話の際のポイント〉</p> <p>分からぬことや自分と異なる考えがあつたら…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜその資料を付け加えようと考えたの？ ・私は少し違つて～と考えたよ。 <p>など対話をしてみよう！</p> </div>
まとめる	<p>○個人で考えを再構築する。</p> <p>5 全体共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の考えを聞く際に、分からぬところやもっと詳しく知りたいところは、進んで質問させるようにする。 ・全体で共有する前に、自分の考えをまとめ時間を見つける。 ・どのような意図で資料を選んだのか、本文とどのように関連付いているのか説明させる。

いかす	<p>6 本時の振り返りをする。</p> <p>C : 私はリーフレットを作るときに、取り上げる和の文化の「作り方」を入れたいです。なぜなら、実際に作り方などを知るとその和の文化により興味をもつてもらえると思ったからです。</p> <p>C : 本文に関連付いた資料を取り入れることで、主張に対する納得度が上がる分かりました。だから、リーフレットを作成する時も、和の文化を大切にしたいと思ってもらえるような資料を見付けてリーフレットに活用したいです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童それが異なる資料を選んでも、本文の内容と関連付いている資料を付け加えることで、筆者の主張の納得度を高めていることに気付かせる。 東小振り返りスタイルを意識させながらスプレッドシートを使って振り返りをさせる。 授業を通して学んだ資料の付け加え方をリーフレットを作成する際にどう生かしたいか書かせる。 <p>【筆者が伝えたいことをより分かりやすく伝えるために、どのように情報を関係付けているのかを捉え、それに対する自分の考えをもち、リーフレットの作成にどう生かしていくか考えている。(スプレッドシート・資料付け加えシート)】</p>
-----	---	---

9 板書計画



10 目指す児童の姿と手立て

	指導の工夫	することによって	目指す児童の具体的な姿
① (本時) 指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・全体共有の際は、インターイビュー記事を付け加えた意図についての様々な児童の考えをファシリテートしながら筆者の主張につなげていく。 ・付け加える資料を選ぶための考える視点を示す。 		<ul style="list-style-type: none"> ○資料と筆者の主張との結び付きについて考えることを通して、資料が筆者の主張の納得度をより高めていることに気付いている。 ○筆者の納得度をより高めるための資料を考えることができる。
② (本時) 伝え合いの場	<ul style="list-style-type: none"> ・対話の具体や対話の際のポイントを示す。(指導案本時に記載あり) ・交流後に、自分の思考を再構築する時間を設ける。 		<ul style="list-style-type: none"> ○なぜその資料を付け加えるとよいと思ったのか理由を明確にして相手に伝えることができる。 ○自分と友達の考えの共通点や相違点を踏まえた上で、さらに新しい考えに気付いたり、自分の考えを深めたりすることができる。
③ 単元づくりの工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・「目指せ三ツ星!広島和シュランプロジェクト」を単元のゴールとして設定し、広島県に住んでいる人や観光客にまだ知られていない広島の和の文化の魅力を紹介する活動を設定する。 ・紹介した相手から星をもらえる基準を明確にし、目指すリーフレットの具体を示す。(指導案指導観に記載あり) 		<ul style="list-style-type: none"> ○単元の目的をはっきりもつことで、児童が興味をもって、意欲的に学習に取り組むことができる。 ○児童がどのようなリーフレットを作つていけばよいかという具体的なイメージをもちながら学習に取り組むことができる。